

31名の参加でカイノづくり

10月6日午前、元井甚正さん宅（砺波市秋元）で、植樹を行った。31名が参加し、ケヤキ、ヒバ、サワラ等10種、38本の苗木を植えた。

春の4月3日大暴風でスギ中心の市保存樹屋敷林になっていたカイノが歯抜け状に数本倒れ、跡が心配で残りの30本近いスギを全部伐採、家屋が丸裸状態になった。

カイノ倶楽部は、何とか復元してもらえないものかと役員会で相談。近くの高畑邦男（倶楽部幹事）さんを通じて話しかけた。

その内に、裸状の屋敷林内の草の繁茂がひどくなり驚かれた元井さんもカイノのあることが大事だと気付かれ、倶楽部の提案している「風に強いカイノをつくろう」の話に同意をいただき、具体的な運びとなった。加え、砺波市も積極的に苗木の斡旋や「管理しやすい屋敷林づくり」リーフの作成もして広く市民へカイノ維持の提案をおこなった。

元井さんの希望する樹種で、植え方や樹種の組み合わせも倶楽部の提案の押しつけではない方向で話し合い、植えた木は将来こういう樹冠になるとした設計図もつくり、一層の理解を深めあった。

残っていた中木22本と30本余りのツツジ等の低木は大いに生かして活用する事を考え新しい木を入植した。

当日は好天に恵まれ、倶楽部員に加え、近所の方や郊外の関心のある方も参加された。市の沢田農林部次長や林係長、屋敷林保全管理検討委員の参加もあった。

植樹前に柏樹代表幹事が「カイノは人が植え、よりそいあってこそ本物。身近に木の命のあることは親子の関係と同じだ」と挨拶し、沢田農林部次長が激励した。植え方の説明のあと、全体に配置した苗木を手分けし植樹に入った。

そのあとカイノの配置図を中心に今度の植樹のねらいや特徴の説明をし、意見交換があった。11時近くで行事を終了し、全員に土産としてタブ苗2本ずつ配った。（嶋田武之さんからの寄贈）

元井さんは「風で大変なめにあったが、こうして皆さんに注目され協力してもらって気持ちいい。本当に有難う」と植えられた木々を見てまわってみえた。

この行事を北日本、富山、読売、朝日の各紙が報じた。市の広報からの取材もあった。後日、元井さんの近所の方から「ぜひスギを植えておきたい」と連絡があり、苗木を用意し手伝った。又、新聞報道から色んな植樹への関心がよせられた。



作業前の集い



母屋南面の植え込み



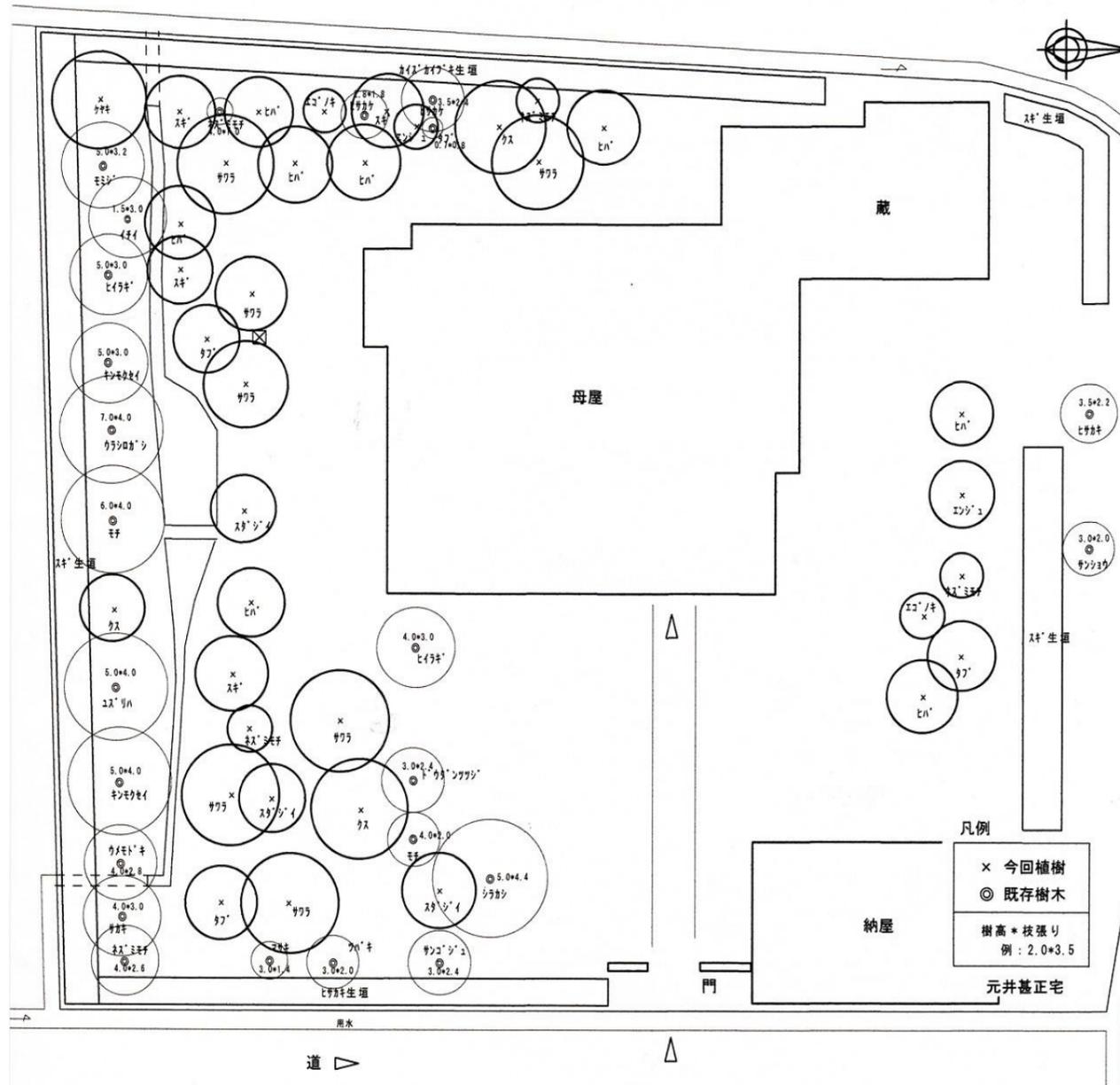
母屋西面（うしろ面）の植え込み

「風に強いカイニヨ」パンフ、樹冠想定図もつくる

カイニヨ倶楽部としてこれからのために「カイニヨのリフォーム」〈植樹会・計画書〉のパンフをつくった。このテーマを「風に強いカイニヨ」とし、植え方、配置、計画内容、樹種の特徴、等々をまとめた冊子。

又、元井さん宅の植樹配置図をつくり、既存木と今回植えた木がどんな樹冠になるのかの想定図もつくった。植えた木はスギ4本、ケヤキ2本、サワラ8本、ヒバ8本、クス3本、タブ3本、スダジイ3本、エンジュ2本、ネズミモチ3本、エゴノキ2本、の計38本。

既存の中低木も生かし成林すると6グループぐらいの樹叢ができる。風の逃げ道を考え、根の張り方も重厚になって、風に強いカイニヨとなる。10年を節目に注目しながら倶楽部としても将来へのパイオニアとして期待しつづけた。



樹冠想定図

砺波市「屋敷林づくり」リーフと苗木配付

砺波市は4月3日大暴風雨でのカイニヨ被害をふまえ、屋敷林保安全管理委員会を6月28日に立ち上げ、屋敷林保全への智恵を集め、その内容をふまえたリーフをつくり、9月下旬全戸に配布した。

4頁のコンパクトなもので「屋敷林の植栽方法」「屋敷林の管理方法」を中心に、市としての支援内容と、地域相談員を委嘱し維持管理についても対応できるようにしたもの。

割合平易で理解しやすく、親しみのもてるリーフになっている。大いに活用し、参考にして、カイニヨとの共生がはかれるものと思われる。

又、市は10月6日市民の希望した苗木の配布を行った。4月3日暴風雨倒木被害1,100本、今回、希望を取り配布した苗木は690本であった。回復率は63%で、市民のカイニヨ魂はしっかり生きている。

■ホームページのアドレス変更連絡です

<http://kainyo.org/>

変更よろしくお願い致します

